初 版 2011.07.16
第2版 2023.02.07

博物館 Dictionary No.168

◆あなたに語る・時代を超えて生きる心◆

展示中の作品について、研究員が分かりやすく解説します。

仏教絵画と動物

仏様を描いた絵には、動物がたくさん登場します。ライオン、トラ、ゾウ、水牛など、皆さんの人気者が見つかることでしょう。

でも、ちょっと待って下さい。動物園ではおなじみのこれらの動物、日本の自然の中で暮らしているのかというと、そうではありません。

実は、これは、仏教が日本ではなくインドで生まれたということと関係しているのです。インドの人にとっては、先ほど挙げた動物たちは、日常で見かけるなじみ深いものでした。だから、仏様の乗り物などとして描いたのです。

ところが、仏教は、中国に伝わり、やがて日本に伝わります。しかし、中国も日本も仏様の姿についてはインドのお手本に頼っていましたから、普段見ることのできない動物であっても描き続けられることになったのです。ですから、仏様の絵に描かれた動物をよく見ると、少しおかしい所が発見される場合もあります。実物を見たことがないと、お手本を写し間違ったりしてしまうからです。逆に日本にもいる動物の場合は、かなり正確に描いています。動物図鑑と見比べながら、仏様の絵に描かれた動物を見ると、いろいろなことがわかります。

今回は、仏様の絵に描かれたある動物を通じて、インドと日本との関係を考えてみたい↗と思います。その動物とは、ネコです。

皆さんは、十二支にネコが入っていないことに疑問をもったことはありませんか。実は昔の人もこの身近な動物がいないことを不思議に思い、神様が十二支を決めるときネズミに騙されてその場に遅れたからネズミを食べ

図1　重要文化財　仏涅槃図　長福寺蔵

るようになったのだというような説話が伝えられています。

特に、お釈迦様の亡くなる場面を描いた涅槃図では、お釈迦様の死を悲しんで地上のあらゆる人間と動物が集まったというのに、古い時代のものにはネコが描かれていないのです。これも十二支同様に大きな謎に感じたようで、いろいろなお話が考え出されました。たとえば、お釈迦様のために木に掛けてあった薬を取りに行くネズミをネコが捕まえてしまったからだ、などというまことしやかなお話しが伝わっています。

それではあまりにもネコがかわいそうと思ったのか、時代がくだるとネコを描き加える涅槃図が増えてきます。これは、中国人や日本人がお手本を離れて付け加えたものです。鎌倉時代に作られた長福寺の涅槃図では、三毛猫がしっかりと描かれています（図１）。

では、なぜ涅槃図にネコが最初は描かれていなかったのでしょうか。この理由は実は単純で、かつてネコがインド以東にはほとんどいなかったことが原因です。ネコは中東地域の原産で、エジプトで最初に家畜化が進み、それが東洋に伝わったのはかなり後の話なのです。広まったのは、ネコの得意技、ネズミ捕り能力のおかげです。保管中の穀物・食料、お経などの紙の記録、これらを食い破り、場合によっては伝染病を広めるネズミは、人間の天敵になりました。かわいらしく、ネズミを退治してくれるネコは、人間の大切なパートナーになり、世界中に広まっていったのです。

史料によりますと、日本には平安時代のはじめには確実にいたと考えられます。

しかし、その当時はまだ貴重な舶来のペットで、逃げないよう犬のように紐につないで飼っていたことが『源氏物語』などから知られています。ネコにとっては、ネズミを捕るどころではなく、ストレスのたまる飼い方でした。

これ以降、日本美術の中でもネコが表現されるようになってきます。12 世紀の有名な鳥獣戯画（京都・高山寺所蔵、図 2）には、ネコとネズミが一緒に描かれています。

こうして徐々に増えだすと、後にはまったくありがたみのないなじみ深い動物になってしまいました。このギャップが先ほどの謎につながったわけです。しかし、おかげで今日では放し飼いになり、ネコ大喜びという状況になったのです。ちなみに、2 月 22 日はネコの日です。なぜかって？　ニャンニャンニャンだからですよ。

（美術室　大原嘉豊）

図2　鳥獣人物戯画　甲巻（模本）　部分　山崎蓋詮筆
明治時代　19世紀　東京国立博物館蔵
出典:ColBase（https://colbase.nich.go.jp/）

印刷・富士印刷社